

# こころの言の葉

本当に大切なあなたへ・・・

平成15年度「こころの言の葉」コンクール作品集

鹿児島市教育委員会 編

## はじめに

鹿児島市教育委員会教育長 橋元忠也

「鹿児島市の教育を考える市民会議」の提言を受け、平成十五年度の新事業として実施された「こころの言の葉」コンクールの作品集をお届けいたします。

この作品集には、中学生の子から親へあてたメッセージと、親から中学生の子にあてたメッセージが数十編掲載されています。どの作品も、日頃は口に出せない思いを文章にしたためたもので、読む者に多くの感動を与えてくれるものばかりです。また、数多くの作品の中には、自分と同じ「こころ」のメッセージを見出せるものもあるのではないかと思います。

是非、皆さんで御愛読いただき、自分の親について、子について、改めて認識しなおすとともに、これからの自分の在り方について考える契機としていただければ幸いです。

最後に、「言の葉」を寄せていただいた三、三三六人の皆さんに謝意を表し、はじめのことばといたします。さあ、「こころの言の葉」の世界を存分に味わってください。

平成十六年二月

# 目次

---

はじめに	鹿児島市教育委員会教育長 橋元忠也	一
蒼 <small>あお</small> き言の葉	中学生の子から親へ	三
慈愛の言の葉	親から中学生の子へ	一五
明日への言の葉	幸せを誓って、子へ、親へ	二七
あふれだすこころの言の葉	ここにもたくさんさんの愛	三九
「こころの言の葉」コンクール入賞者一覧		四六
審査員講評		四七

---

# 蒼き言の葉

---

—中学生の子から親へ—



## 家族のチカラ...

「ありがとう！」

父さん、母さん。ずっとこの言葉が胸の中にひそんでいたよ。言いたかった、伝えたかった。けど、恥ずかしくて言い出せなかった。

あの時だってそう。もう二年も前になるかなあ。私が中学受験した時のこと覚えてる？ 問題集を買って解いた。必死になって。でも解けなくて、父さんに聞いた。父さんの説明が長すぎて私怒ったよね。

でも、父さんは懸命に教えてくれた。嬉しかった。私、素直じゃないから「ありがとう」って言えなかったよ。あと、母さんも受験に備えていろいろと準備してくれたよね。それにたくさんお金も使った。私、しっかりと勉強しなかった。だから落ちた。それなのに一言も責めなかった。それどころか「よくがんばった」って言うてくれた。本当に感謝している。あと、すぐく後悔してる。本当にごめんなさい。

でも、このことがあって、たくさんいろんなこと学んだよ。だから次は絶対がんばる。約束ね。

それでは最後に一言。「私は今、父さんと母さんにすごくいろいろな面で感謝してる。本当に本当にありがとう。そしてこれからもよろしくお願いします。」

# あこがれの人



お母さんは、お父さんと離婚して、お姉ちゃんの短大のお金とか、私の学校や習い事のお金とかでいっぱいお金が必要で、それでもめげないで一生懸命お仕事探して、今では来てくださって言うってくれる会社もあって、本当に本当にがんばってくれてありがとう。

私は、お母さんが一生懸命仕事してる姿見て、いっつもかっこいいなあって思ってるよ。しかもお母さんはスパンコール付けたってできるし、絵がうまいし、勉強も、教え方は下手かもしんないけど、いっつも私が頭をかかえてたら教えにきてくれるし、私にとってお母さんはあこがれの存在だよ。将来はお母さんみたいな親になりたいです。

そとづら  
外面がいいと言われるお父さん。

カッターシャツも自分でアイロンをかけないと  
気がすまないお父さん。

そんなお父さんが、僕が中学生になったら、毎朝、  
制服のシャツにアイロンをかけてくれる。酔っ払った  
朝なんか大変なのにいつもありがとう。

外面がいいってことは外見も心の中もすっかりして  
いることなのかもしれない。

のりがきいてしわのないシャツを着ていくと、気持ち  
がひきしまるし、お父さんの優しさも感じるよ。



## 父親のカガミ

私は最近お父さんといるのがいやです。  
しゃべるのもいやだし、なんか前見て  
たお父さんとは見方が違ってて、すご  
くいやでうるさい。でも最近、暑い中、  
仕事で外に立っているから食欲がなく、  
胸のところを叩きながらご飯を無理や  
り食べているのを見てたら、自分がお  
父さんにとっている態度にだんだん罪  
悪感を感じてきました。私がどれだけ  
冷たい態度をとっても優しくしてくれ  
てありがとう。これからはもっと家事  
を手伝うようにします！

## 父への告白

実際書くとは恥ずかしいです。  
家では毎日、誰かが怒って、誰かが  
泣いて。怒ったらお母さんが一番怖い  
です。態度で示すというか、とにかく  
恐ろしいです。怖い分だけ自分が悪い  
ことをしたのかもしれないけれど、お  
母さんに似たのか、私も反撃しますよ。  
逆ギレが続いて大変だけど、怒るのも  
愛情って言うからね。  
お父さんとはけっこう仲良しな方だ  
と思うけど、私は今、反抗期なんです  
か？私が怒るのは同じことを何度も聞  
いたりするから。お父さんが言ってく  
ることは、鋭くて、凶星ということが  
多いけど、結局仲よくしゃべってられ  
るから。  
感動的なことは書けなかったけど、  
今までもこれからもずっとありがとう。  
どうぞ明日からもよろしくたのみます。

わかってはいるのです



# 本当は寂しかった

本当は言いたくてしようがなかった。言いたくて言いたくて、言いたくて。でも言えなかったこと。

家に帰ったら、真つ暗な部屋が私を待っていて。ただいまを言っても返ってくる言葉はなくて。

静まり返った部屋が大きらいだった。家で一人、帰ってくる家族を待つのが大きらいだった。でも、いっしょうけんめいなお母さんたちを見ると、そんなこと言えなくて。

でもね、お母さん、仕事だってことは解ってる。お父さんが単身赴任だってことも、お兄ちゃん、お姉ちゃんが大学でいないってことも。

でもね、お母さん、本当は寂しかったよ。

でもありがとう。

お父さんとお母さんは思ってたんじゃないと思う。

けど、私はずっと親の言うことは最低限守る「イイコちゃん」でいたんです。

でも、このごろ嫌なこととかあったりすると、だまって塾さぼったり、うそばかりつくようになってきました。

気付いているの？お父さん、お母さん……

私の趣味を理解してくれる？お父さん、お母さん……

まだ知られざる我が子を知らない両親に。私はどうすればよいのでしょうか。

## 娘の正体



私が学校でいやなことがあった時、何も言わないのに、顔にも出さないのに、お母さんにはすぐわかってしまう。「どうしたの」と優しく聞かれたとき、私はホッとしていつも泣き出してしまふ。そして優しく、時には厳しく支え守ってくれる私の大切な人。

でも正直になれなくて、うそをついて困らせたり、本当のことを言えなかったり。私ならこんなふうなことをしたら絶対きらいになるのに、お母さんはいつまでも見守り支えてくれる。きらいにならないでずっと見守ってくれる。そんなお母さんがとても大好きです。「ありがとう」「これからもよろしく」

## 「いつも」感謝

お母さん、いつも弁当つくってくれるとき、私が何も言わなくても、具が私の好きなものばかりなの気づいてるよ。具よりも「おかあさんの気持ち」でおなかがいっぱいになります。

お父さん、気がつけばいつも私の通学手段を心配してるよね。毎日ムリして車で送ってくれなくても、バスとかいろいろあるので大丈夫だよ。心配性のお父さんの体が心配しすぎでまいっちゃいそうで心配です。

いつも反抗ばかりしちゃって、今さら改まって言うのが恥ずかしいけど、いつもホントに感謝してるんだよ。ありがとう。

## お母さんの不思議

お母さん。私は毎日、だるい、いやだ、めんどくさいって言ってるよね……。いつもガミガミ言われて、「はい」と言うのに、いつも返事だけ……。そのうち信用されなくなつた時期もあつたよね。

そして、私は時々、「なんで生まれてきたのだろう。お母さんが痛い思いをしてまで、どうして生まれてきたのだろう」と思う時がありました。私はそれを思い、一日中泣いたこともありました。けれど、お母さんたちと話して一緒に笑っているとき、一緒に買い物をしたとき、やっぱり生まれてきてよかったあとと思う時があります。だって……。生まれてこなかったら、買い物も、一緒に笑ったりもできないのだから……。

だから、生んでくれてありがとう、と私は言いたい。

生んでくれてありがとう

おじいちゃん、おばあちゃんへ

おじいちゃん、おばあちゃんへ。いつも言うことを聞かない私を、今まで十年間育ててくれて有難うございます。自分でも言うことを聞いていないのはわかってるし、二人のおかげで、今、ここにいるから、とても感謝しています。

本当は、ちゃんと言葉で伝えないといけないことだけど、やっぱり面と向かって言うのは照れてしまつて出来ません。

おじいちゃんもおばあちゃんも優しくて、私はつい甘えが出てしまうけど、これからも、その優しい目で私を見ていてください。きっと二人のように優しい人間になります。

今までありがとう。これからもよろしく願います。

## わたしのウルトラマン

お父さんとフェリーに乗って鹿屋に行った時、帰りのフェリーで私はくたくたになってしまいました。

でもお父さんは毎日フェリーで通勤してるんだよね。毎朝五時三十分くらいに起きて、六時十五分ぐらいに家を出る。こんな生活、私には無理だよ。でもお父さんは文句も言わないで、ずっと一人でがんばって、私から見たらウルトラマンみたいだよ。すごくかっこいいよ。いつもは何だか恥ずかしくて言えないけど、ありがとう、お父さん。

家に帰ると、ソファでうとうととして  
いるお母さんを見る。

ひとりになったおじいちゃん。

子育てに追われるお姉ちゃん、

単身赴任中のお父さん。

毎日いろんな所に飛び回って、みんなの世話をやいてくれるお母さんはスゴイと思う。

意地でも起きない私と兄を起こすこと  
から母の朝は始まり、仕事に出かけ、  
飛び回り、夜ごはんを作ってくれて、  
大変な毎日を送ってくれるお母さんに、  
「ありがとう」を言います。

## お母さんってスゴイ

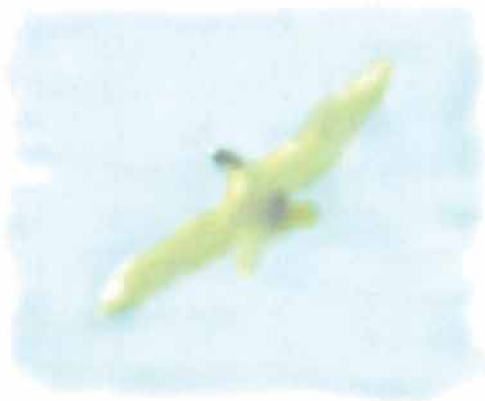
# 成長の鼓動

小学校低学年のころ、誰でも持っていた純粹な心。ぼくは今、そんな心を忘れてしまいました。小さいころ、ぼくは「甘えん坊」とよく言われていました。

しかし、その言葉は、今どこかへ消えてしまいました。今のぼくは親に反抗し、親との会話もなくなっていると気付きました。

そんなぼくなのに、両親はいつまでも味方してくれました。今ふりかえると、今の自分が悔しくて悔しくて、言葉にできません。うそをつき、親孝行をしない自分を変えたんです。甘えてもいい、うるさいと思われるほど話してもいい、そう思っても間違いないと思います。

何があっても優しくしてくれるお父さん、お母さん。ごめんなさい、そしてありがとう。



## 本当はね…

—本当の本当に思ってるよ—

今まで十三年間、本当に「ありがとう」なんて言ったことがなかったね。小学校から、運動では心配をかけて、勉強ではガツクリさせて……。でも、今でも心から「よかった」と思えることがあるんだ。小学校卒業式のセリフの中で、私は「お父さん、お母さんの愛情に包まれ」のセリフを言ったけど、その時は心の底からそのセリフを二人に伝えられたと思うよ。

思春期、反抗期みたいなのに振り回されて、勝手にイライラしたり怒ったりすることも今だってあるけどね、本当は自分が悪いのは、ちゃんとわかっているんだから……。中学生になってから習い事でも私の方だけに負担がかかっていたり、部活で体調を崩して心配ばかりかけたりして大変かもしれないのに、私は「親孝行」らしい親孝行をしたことがないね。本当はね、今でも夜、仕事で遅かったらマジで心配しちゃうんだよ！それくらいお父さん、お母さんのことが大好きなんだって、本当の本当に心から思う時だってちゃんとあるんだからね。忘れないでよ。

# 慈愛の言の葉

---

—親から中学生の子へ—



私の息子へ。

早いもので、あなたも中学二年生。十四年間、一生懸命にあなたを育ててきました。

中学二年初めで、「いじめ」といういやな経験をしましたね。今だから言えることであつて、あの時はお母さんも頭の中が真っ白になり、パニックになりました。仕事も手につかず、夜も眠れない日がありました。あなたは「誰にも言わないで。先生にも！仕返しがこわいから」とも言ったよね。自分が我慢すればいいことだからと言ったときは、お母さんの心が痛みました。涙も出ました。あなたが正しい思いをしているのに、どう助けていいかわからなかった。先生方の手を借りて今では落ち着きました。あなたは優しい気持ちを持った子です。まわりの人にも優しい気持ちで接することを心がけてください。

親に文句を言ったり、生意気な態度をとったりした時は、腹が立って叱り飛ばすけど、あなたはお母さんが生んだ、この世でたった一人の息子なのだから、命を大切にしてくね！

あなたを大切に思っています。

大切なあなたへ

# 反抗期、おめでとう！

最近、「うるさい」「わかってる」って言葉多くなつたね。思春期Ⅱ反抗期かな？自分のことは自分で決めようとする大事な時期なんだね。それが「自立していく」ということじゃないかな？

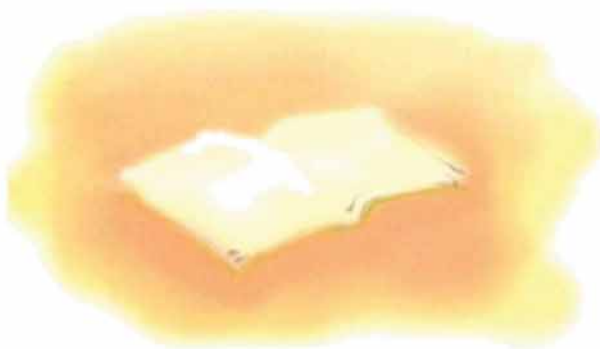
だから、反抗期おめでとう！

いろいろ決めかねて悩んでいる君に、ついお節介出して言いすぎちゃったりするんだよね。だって、反抗期を経験した先輩だからね。

一つだけアドバイスするとしたら、「人の意見に耳を傾ける」ことかな。友達、先生、親……。それが煩わしいと思うなら、本を読むことを勧めます。それも、できるだけ、たくさん。本の数だけ人の考えがあると私は思っているから、たくさんさんの意見（考え）を知り、自分で自分の道を決めてください。

自分を寛く、大きくしてください。

いつでも、ちゃんと向き合い、見守っているからね。



# いてくれてありがとう

この手に我が子を抱けるとは……。お父さんとお母さんが諦めかけた頃、あなたを授かりました。長い長い道のりの後、やっと生まれて、「はじめまして」のあいさつをしてから、早いもので十五年。

親業をさせていただいてから子育てのむつかしさをしみじみ感じます。

親ゆえ、あなたがまっすぐな道を歩むよう激しく叱ることもあります。ついつい当たり前前のように、すぐ生まれた子供と錯覚してしまいがちになりますが、あなたを遠くから眺めながら、生まれた日を思い起こし、「いてくれてありがとう」と思っているのですよ。

お父さん、お母さんの子供でいてくれてありがとう。

自分の道を探してくださいね。



いつも元気で勉強やスポーツに毎日がんばっていることだと思います。

おかあさんはあなたと毎日会えなくてさみしいけど、あなたのことを毎日思っています。

あなたは、少し寂しがりやのところもあったりするけど、人より頑張るといふ気持ちを持った素直なよい少年になったと思います。だけど少しだけ、短気なところもあったりするけどね。

でもお母さんは、そんなあなたがとても好きだよ。だからこれからは、どんな時にも周りのみんなの気持ちを考えてあげられるような、思いやりのある人になってほしいです。

おかあさんも頑張るから、あなたも元気でがんばってね。

たとえ今、離ればなれでも

親の忠告はうるさいものと決まっている。頭でわかっていることを図星で言われると、余計反発したくなるものだ。

今、自分が親になると、立場が逆になってしまった。

我が子がドロップアウトしないように気をつかっている、自然と小言になってしまうようだ。どう受け止められようと、これは大切なものだと思う。きっと、大人になり、親になってみて、初めて有り難さがわかるのだろう。だから、今は、忠言を聞かせよう。大いに反発もし、それからもつと成長してもらいたいから。

忠言宣言！

# 永遠のライバルに

早いもので、あなたが生まれてから十四年。中学二年生になったあなたを見てみると、まるで自分を見ている錯覚に陥ります。のんきな勉強への心構えも、バスケットに熱くなるところも、母への反抗のしかたまで。あなたを見ながら、中学生の頃の自分を重ね、苦笑したり、反省したりする毎日です。

悩み多い年頃ですね。人間関係にもストレスを感じ、イライラして私や弟妹に当り散らすこともあるよね。個性が集まっている学校生活、クラスで部活動で、友達や先輩後輩との人間関係を難しく思うこともしばしばかも。でも、人との関わりはこれらの長い人生絶えることはありません。自分というものをしっかり持ち、ゆったりと人と関わってください。大丈夫、あなたならできます。

お母さんには一つ目標があります。それは「あなたに負けないこと」。身長ももう追い越されそう、体力もそろそろ負けそう・・・かもしれないませんが、意地でも「負けた！」と言いたくないな。あなたに「永遠のライバルはお母さん！」と言われるように、体力も知力も、そして若さも。いつもあなたの一步前を走っているお母さんであり続けたいと思っています。そのためにもお母さんは何にでも元気に一生懸命にがんばるつもり。厳しいこともバリバリ言うけど、全力であなたを励まし、いっしょに進んでいきたいと思っています。

「もっと自分のやりたいようにやっていいんだよ」という父親の言葉に、

「いい子にしなきゃいけないと思ってた」とぼろぼろ涙をこぼした日があったね。

挨拶と言葉遣いだけはきちんとできる子にと、必要以上に厳しく躰けてきたのかもたれない。あなたの涙を見ながら、自分の子育てがこれでよかったのかと考えさせられた。

あれから三年。中学生になったあなたは、以前より随分自分を出せるようになったね。楽しいこともいやなことも、何でも話してくれる。時には、私の知らないことを教えてくれる。ちよつぱり大人に反抗する。心の中には、まだ「いい子にしなきゃ」という思いがあるかもしれないけど、自分の考えで、やりたいうにやっていいんだよ。

いつか親元を離れて自立するとき、あなたが困らないように、最低限のことは伝えていく。厳しいと感じる時もあるかもしれないけど、それが親の務めだからね！

## 涙を見ながら

# 父の誓い

お父さんとお母さんが別れて、もう一年二か月が過ぎようとしています。親の都合から、姉妹が別れ別れに暮らすことになり、さらにはお父さんだけでは面倒を見ることができずに施設へお願いすることになってしまい、本当に申し訳ないと思っています。それでも当初はお姉ちゃんが一緒にまだ心強かっただろうけど、今年の八月には、そのお姉ちゃんも学園を去ることになり、妹と二人きりになってしまい、寂しさと不安でいっぱいだろうと思います。

もちろん、お父さん、おじいちゃんも、おばあちゃんも、帰省で帰ってきたときは心が安らぐけど、帰ってゆく時は、寂しさがこみ上げてきます。一日も早く一緒に暮らしたいと思っています。また、そうなるよう精一杯努力するから、もうしばらく辛抱してください。きっと近いうち、そうなる日を夢見ています。

# 私が味方になるからね



今、あなたの心の中は、不安で不安でたまらないと思います。自分でもう分かっているんだよね。学校に行かないとダメってことぐらい……。でも行けないんだよね……。

お母さんはあなたが生まれた時からずっとあなたに感謝しているんだよ。私の子どもに生まれてきてくれて……。宝物なんだよ。だからあなたが楽しく学校に行ける日まで見守っているから、味方になるから。だから自分に負けないでネ。一緒に頑張ろうネ。



## 親にとっての宝

あなたが「健康」であることが、親にとって一番の宝物だと思っています。「身体の健康」、「心の健康」です。あなたは、学校のこと、友人のことを、毎晩家族で食事する時にうるさいぐらいに話してくれますよね。時には「早く食べなさい」と注意されるぐらい、たくさん、たくさんのお話を話してくれますね。家族で冗談言って笑ったり、泣いたり、怒ったりと忙しく過ごしている毎日が、とても大切です。

これからあなたが悩む時が、きっと何度かくるはずですよ。お父さんとお母さんは、あなたより長く生きています、あなたの親なのだから、あなたが後悔のない道を歩めるように、手助けしたり、背中を押してあげたり、厳しくすることもありますが、愛するあなたのためなのです。

父・母より

自分の子どもを信じられなことは、自分の子育てを否定していることという。

ならば裏切らないでほしい。

たとえば、裏切られたとしても、子どもを責めはしない。

自分を責めることでしよう。

この世にあなたは一人だけ。

親にとっては、あなたでなくやいけないのです。

心を汚すことなく、いつまでもピュアな、笑顔の素敵な大人になることを願います。

あなたの一番のファンは私です。  
一番のサポーターは私です。

一番のファンより

# ずっとそばに私がいるよ

今、心が傷つき、悩み苦しんでいるあなた。そんなあなたに私は何をしてあげられるのでしょうか。学校から帰ってくるなり、机につっぷして泣いているあなたを見て、「何がそんなに辛いのか。何を苦しんでいるのか。その苦しみを私に分けてほしい。」と思う。

時々、にらみつけるような目で私を見、「私の気持ちなんか少しもわかっていない。」と怒りをぶちまける時、何があなたをそこまで追い込んだのかと思うと悲しみでいっぱいになる。

何という言葉をかけていたらあなたの気持ちが救われるのか。どういうふうに接したら、あなたの心が安らぐのか。私にはわからない。でも、お母さんはただあなたに伝えたい。

「私がいるよ。ずっとそばに私がいるよ」と。

いつかは巣立ってしまうあなただけれど、今はまだ優しくあなたを包んであげたい。抱きしめてあげたい。私より大きくなったあなたを前にしても、私にとってあなたは十五年前の生まれだての赤ちゃんだった時のあなたと少しも変わらないのだから。

どうか、あなたのことをいつも一番に思っている親の気持ちを無視しないでください。いつも親のことを考えてほしいとは言いません。だから一人で悩んだり、思い込みだりせずに、言葉にして伝えてください。いくら親子の間でも、言葉にして表さなければ気持ちが通じ合わないことがあるはずです。小学校低学年の頃を思い出してごらん。うるさいと言われるほど、何でも話してくれたことを・・・。

だから困った時、わからない時は、親に話してください。私たちはいつでも、あなたのことを思っていますよ。最も近くにいる、あなたの味方ですよ。

## 言葉で伝えて

## いちばんの願い

傍によると、少し煙たがるようになってきた、中学校一年生の娘へ。

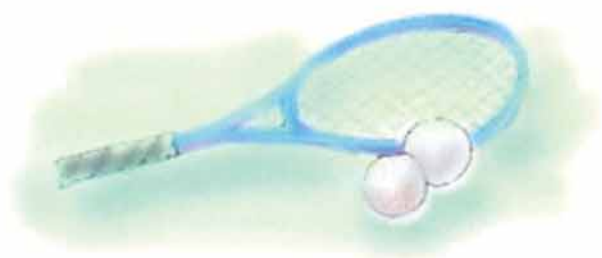
私があなただの年齢の頃、私の父は天国から私を見守ってくれていました。

その父の年齢を超えた今、私の一番の願いは、いつまでもこの世であなただを見守っていたいということです。

# 明日への言の葉

---

—幸せを誓って、子へ、親へ—



中学校でソフトテニスをやって本当によかったと思います。三年間は本当に早かったけれど、最後の中体連は本当にいい思い出になりました。

前の日に団体戦で負けてしまい、もう個人戦しかないぼくに、朝、父さんが小さな紙を渡しながらこう言ってくれました。

「楽しんで打ってくるんだよ。」

ぼくは試合前にその紙を見ました。それには「この一球を信じて打つ」と書いてありました。ぼくはその言葉を自分に言い聞かせました。そして試合。相手は強く、一・二・三セット連続で取られて、あと一点で負けという時、涙が出そうでした。でも、目の前で母さんが応援してくれていたからこそ、あの力と気持ちが出たんだと思います。そこから逆転勝ち。

勝って初めて泣いた試合。気持ちは何よりも強いことを知りました。お父さん、お母さん、あの試合はずっと忘れません。本当にありがとう。

## この一球を信じて

# お父さんの子どもだから



お母さんはお父さんの分までは頑張れない。

でも、お母さんができることを一生懸命頑張る。

あなたは、今、あなたに出来ることを一生懸命頑張ってほしい。

つらくなったら、お父さんの最後の姿を思い出してほしい。

亡くなる瞬間まで一生懸命生きようとしたこと。決してあきらめようと

しなかったこと。

そんなお父さんの子どもであることを忘れてはいけない。

きっと大丈夫。

# 親孝行宣言



お母さん、私ももう十四歳になります。小さい頃から喘息で夜中に病院に行ったり入院したり、いろいろと迷惑をかけました。

でも今は体力もだんだんついてきて、バレー部で頑張っているので安心してください。小さい頃からずっと仲良しという友達はいないけれど、優しく楽しい友達に囲まれて、楽しい学校生活を送っています。

将来は作業療法士になって、いろんな人と触れ合いながらいろんな人の病気を治して、患者さんに好かれる人になりたいです。

私が二歳の時にお父さんが死んでしまってから、女手ひとつでここまで育ててくれたお母さんには本当に感謝しています。

私が落ち込んでいると明るくはげましてくれて、私に嬉しいことがあると一緒に喜んでくれる、私にとってたった一人の大好きなお母さんです。

今は仕事とか忙しいと思うけど、私が大人になったら、私が今度はお母さんを幸せにするから。まだまだこれからお世話になると思いますが、よろしく願います。

もっと勉強しろ。体を鍛えろ。だらだらするな。

はしつとしろ。あいさつをしつかりやれ。めしをきちんと食え。人をいじめるな。人に迷惑をかけるな。男は泣くな。

もっともっと頑張れ。自分に負けるな。根性をつけろ。

途中で投げ出すな。ぐずぐずするな。やることはきちんとやれ。

わがまま言うな。もっと一生懸命やれ……。

と、思ったけど、

まあ、今のままでいいよ。おまえは俺の子なんだから。

## 頑固親父の本音



# 糧になる後悔

いつも心配して怒ってくれる二人に、私は「うるさい」とか「向こうに行ってよ!」とか言っつて、よく反発するよね。いつまでたつても素直じゃなくてゴメンね。

自分の名前が「古い」とか「嫌いだ」とか「改名したい」なんて言っつてゴメンなさい。

言つた時のお母さんたちの声、怒つてたけど、表情はすごく哀しそつだつたのを今でもよく覚えてるよ……。それを見た時、ほんとうそれを見た時、本当にひどい事言つてしまつたんだなつて、今さらながら後悔してます。バカみたいだよね。ホント……。悪かつたなつて思うよ。

私は今、受験生だけど、勉強が全然ダメだし、スポーツも普通で良いところは全くないけど、いつまでも変わらず私を応援してくれている二人がいる。だから、私は二人のためにも高校に合格できるように頑張りたい。そしていつか、二人にありがとうって言えるようになりたい。

## 人生を走り抜けるコツ

「おめでどう！」

あなたが生まれた時、口々にみんながそう声をかけてきます。私はゴールのテープを切ったランナーのような達成感を味わっていました。

あなたが「笑った」とか「しゃべった」とか「歩いた」とか、そんなことで盛り上がり、あなたはみんなを喜ばせる名人！同時に、心配させたり、ビックリさせたり、困らせたりするのも天才的！あなたが大きくなるのに合わせるように、心配事だってビッグになっていきました。

親として、何度も何度もつまづいたり、ハデに転んだりするうちに、苦しい上り坂も上手に走るコツがわかってきました。それをチョットだけ教ええますね。

ポイントは三つあります。苦しくなった時、一人で走りつづけるとリタイアしそうになりますよ。周りをよく見ると、同じようにハアハア言っている人がいます。声をかけあって走りましょう！元気が出てきます。人生の先輩方の励ましもありがたいものです！そして、上手に走るポイントには、良いトレーナーを見つけることです！自分に欠けている点、調整すべき点を教えてくれる人、あるいは本の言葉はとても参考になります。その指示に従うと、走りがグンと良くなるのです。あなたも一人で人生を走り始めたところですね。是非、この方法を試して、あなたの走路を楽しく走り続けていってください。

学校にいる間は本当の自分を見せない。つまり、からにこもっているようなもの。しかし、そのからは、家に帰ると崩れていく。きっと安心するのだと思う。心にひっついていた重い何かはがれるように感じる。

私は本当に面倒をかける子どもだ。しかし、私の親は、そんな私の面倒をみてくれている。根気があるなあと思う。

根気だけではない。親はいろいろな言葉にできないような何かを見せてくれる。私が前に学校に行きたくなって泣いたことがあった。その時、親は最善な道を教えてくれた、と、今の私はそう思う。

子どもにとって親はとても大きい存在。きっと親の教育が悪ければ子どもは悪く育ち、親の教育が良ければ子どもは良く育つと思う。しっかり私を導いてほしいと思う。

## 親という存在

## いっぱい人と出会え

息子へ

生まれてから小学校を卒業するまで生活した場所を離れることになり、寂しい思いをさせたのではないかと心配だった。でも、お前のことだから、きっと大丈夫だという自信もあった。今から生きていく上で、人は出会いがあれば必ず別れもある。今はまだピンとこないかもしれないが、お前と私たちにもいつかは別れがくる。人は出会って喜びを覚え、別れて悲しみを知るものだと思う。出会いすぎるといことは決してない考える。いっぱい人と出会え。そしていっぱい勉強させてもらえ。そして成長し、人と出会うことの大切さを知ってほしいものだ。

花の種を植えたことがありますか？  
なかなか出ない芽  
まっすぐ伸びる芽  
くねくねと伸びる芽  
支えがないと立てない芽  
大きくてきれいに咲く花  
小さいけれど一生懸命咲く花  
人の見えないところで力強く咲く花  
その成長を見るたびに　いとおしさや  
やさしさに包まれる  
あなたもこんなに体が大きくなりました  
心も大きくなりましたか  
花を見て人が微笑むように  
あなたも大切な人に微笑んでもらえるような  
心を持ちなさい  
あなたの存在で私の心も大きくなりました  
あなたを守るために強くなりました  
あなたのおかげです  
ありがとう

あなたも花のように

## 幸せのゲーム

私たちが離れて二年が過ぎていき、そして別れたあの夏のことを今のこのように覚えていきます。たとえどんなに離れていても、家族という思いを込めて・・・。

私の夢はゲームの会社に入社すること。あまり金持ちとは言えない家でした。けど、私のわがままで買ってくれたゲーム機は、本当に嬉しくてたまりませんでした。

だから、次は、その嬉しさを家族だけでなく、みんなで笑顔になれるゲームを作る！それが目標なんだ。

私、お母さんやお父さんの気持ちに気付かずにごめんなさい。けど、今ならわかるよ！どういう気持ちだったかを！次は私がかんばるね！

最後におばあちゃん、十二年間ありがとうございました。これからもお世話になります。

## 僕は目標を見つけた

高校卒業したら東南アジアに行って、児童労働撲滅のために人生を捧げると言った時、父さんは危険だねと言って最初は反対したけど、僕の気持ちは変わらないと言った時、どんな時でも連絡がつけばいいという条件付きで認めてくれた時、本当に嬉しかった。だから、苦手の英語も勉強して頑張ろうという気持ちになれた。

これから高校入試の受験勉強が主流で自分の時間を作ることは難しくなってくると思う。でも、僕には明確な夢があるから、きっと志望校合格というマラソンを走りきることができから、僕のことには心配しないで、新しい仕事を見つかることだけに専念してください。

## 子の夢は親の夢

子の夢、それは親の夢でもありません。あなたが「球」という競技に関わってはや十一年。

幼稚園のサッカーに始まり、軟式野球、ソフトボール、中学校に入学してからは部活でソフトテニス、校外では少年野球と三年間頑張ってくれました。全く違う活動で、両立の難しさをよく克服してくれました。特に、ソフトボールの指導者との出会いは、一生の夢を見出すものとなりましたね。

それはプロ野球の選手。ソフトボールから巣立っていった先輩たちの中には三人のプレーヤーが。

「四人目は僕だ。」あれから六年。あなたの情熱はまだ冷めていませんね。いえ、ますます思いはつのり、これから送るであろう高校生活へと続いていくのですね。成し遂げてほしい、絶対に。子の夢、親の夢として見守っています。がんばれ！ ファイト！

## よくばりだけれど

「将来何になりたいのか」「どんな職業に就きたいのか」

返ってくる言葉はいつも「良くわからない。」だけの君。

それでも学校へはちゃんと行くし、授業もちゃんと受けている。

友達と会えるから？ 部活動が楽しいから？ それでもいいかな、君が有意義な中学生生活を送ってくれているのなら。「楽しくなければ学校じゃない」からネ。

ただ、親としては「もう少し」「あとひとふんばり」でいい。将来、君が何の職業に就くにしても、きっと、いや絶対役に立つと思うから。

自分が進んで行きたい道が決まったら、自分の足でしっかりと歩いて行ってほしい。

「いつてきまあーす」

「いつてらっしやい」

こんなあたりまえの会話も、そのうちなくなるんだね。

いつかはお母さんもお父さんもいなくなっちゃうけど、それまで私は精一杯、二人の事を愛するよ。

世界中にはいろんな家族があるけれど、私は私の家族が世界一だと思うな。

私はお母さんとお父さんの娘になれたことを嬉しく思っている。

今までありがとう。

これからもよろしくね。

私はね、将来こんな人になりたいんだ。

お父さんみたいに子どもにも好かれる優しい人に。

お母さんみたいにバリバリ働いて尊敬されるような、かっこいい人に。



世界一の家族だよ

# あふれ出すこころの言の葉

---

—ここにもたくさんのお愛—



思春期と呼ばれる時期を迎え、素直にお父さんとお母さんの言葉に耳を傾ける機会も少なくなっていました。

私の心には、甘えたい子ども私と、少し自立した大人の私があります。だから、お父さんとお母さんの目には矛盾して見えるかもしれません。

でも、私も時々悲しくなるのです。同じことで喜び合えるのに、理解という範囲では一緒にいられないのです。

私にはまだまだお父さんとお母さんが必要だから、見守っててください。

しかられることって嫌われて  
いることじゃないんだね

しかられることって心配され

てることなんだね

しかってくれてありがとう

お母さんといつもけんかして困らせてばかりでした。いつも口ごたえばかり言い、手のかかる娘だったことでしよう。けんかした時には「お母さんなんて大きい」といっても言い、でもけんかしても、次の日、笑って「おはよう」と言われた時はすごいうれしくて、「えっ？許してくれんの？」と不思議に思いました。

お母さん、一人でこの九年間育ててくれてありがとう。これからも口ごたえするけど、でもその時はきちんと怒ってください。怒ってくれないとつまんないじゃん。いつまでも元気で。

優しい君へ・・・

もつと強くなれ！

楽しい君へ・・・

ふざけすぎるな！

ちよつぱり泣き虫の君へ・・・

自分に負けるな！

わりと真面目な君へ・・・

もうちょいはじけてみるか？

バスケ狂いの君へ・・・

まだまだ狂ってみろ！

今のままの君でもいいよ。

結構自慢の息子だから！

君に

色々なことに興味を持って  
いる君。それを嬉しそうに話  
してくれていることがいつも嬉し  
いし、先生も勉強になります。  
優しさも十分持っている君。

ただ、優しすぎて、「嫌」と  
言えない時もあるって、感情を  
出さずにためこむこと、我慢  
しているとところもわかってい  
ます。そんな姿見て、いつも  
心配になります。自分らしく  
でいいんだよ。だからこそ、  
先生には、言いたいこと、ど  
んな小さなことでもいいから  
話してくださいね。

やさしくて思いやりのある子  
に育ってくれてありがとう。  
あなたがいてくれるから怒れ  
るし、

あなたがいてくれるから泣け  
るし、

あなたがいてくれたから笑っ  
てくれたのです。

少しの涙とたくさん笑顔  
ありがとう。これからあなた  
にもたくさん涙と笑いがあ  
るだろうけれど、いつも、ど  
んな時もいっしょに泣き、一  
緒に笑ってあげたいと思っ  
ています。

四・五歳の時に、何回も遊園地に行きたいとだだをこねていました。そして、仕事を休んで遠いところに連れて行ってくれました。その頃は「あたりまえ」とか「やった」としか考えていなかったと思います。しかし今思ってみると、時代は不景気で、夜も九時に帰ってくる。せっかくとった休みなのに車を運転している。そう思う今、親をありがたいと思っております。今まで生きている中で、死のうかなどか、家出してやるのか、こんな家に生まれてこなければよかったなどと考えました。だけど、そんなことも楽しいことやうれしかったことなどで消え去りました。人という字は人と人が支えあっていると思います。ぼくは誰より親が支えていると思っています。クソババアとかクソオヤジとか思ったこともありませんが、それもぼくらのためだと今は思っております。だから敢えて言いたいです。ありがとうございます、そしてよろしく。

お父さん、お母さん、いつも僕のことを見守ってくれてありがとうございます。お父さんは僕が学校から帰ってくる時、毎日とびつきりの笑顔で「おかえり」と言ってくれます。だから僕も学校の友達に大きな声であいさつができるのだと思います。お父さんは家で仕事をしているから、夏休みにはよく仕事をしている姿を見ます。お客様が帰る時は、いつも「ありがとうございます」でした、ありがとうございます。二回もありがとうございます。だから僕は、そんなお父さんを尊敬しています。

お母さん、いつも僕においしいごはんを作ってくれてありがとうございます。お母さんは看護学校の先生だから、働いている姿を見ることはできないけれど、きつと生徒たちにも僕と同じように優しくしているでしょう。これからはお母さんが僕を大切にしてくれたのと同じように、僕もお母さんを大切にしていきたいです。

お父さん、お母さん、これから三人仲よく楽しく過ごそうね。

いつも明るくユーモアがあり余っているお母さん。おそらく、そこまでユーモアのある人はそうそういないだろうと思います。今までいくつもの相談もすっかり聞いてくれて、あまり細かいことは気にせず、でも叱るときには叱ってくれて・・・。そのおかげで、とてつもない問題児だった僕が、前よりも良い性格になったことにはとても感謝しています。

でも、ありがたいの一言は、まだ取っておきたいと思えます。なぜなら、これから先、もっと感謝することがきつとあると思うからです。その時には、心から「ありがとうございます」と言いたいと思っているからです。

最後に、これからもユーモアたっぷりのお母さんで、僕たちを支えていてください。

小さく生まれて、大きく育っているあなた。

あなたを産んだ時、お母さんが最初にかけた言葉は「ゴメンネ」でした。

生まれてすぐ保育器へ。頭から点滴を受け、鼻からチューブで飲む母乳。お母さんは胸が張り裂けそうでした。

毎日病院へ母乳を届け、ガラス越しにしか見られない日々。けど、あなたは小さいながらも元気に育ってくれ、今では小さく生まれたことが嘘みたいですね。

元気に育ってくればそれだけでいいと思っていたのに、最近はお母さんが多くなってきたお母さんです。

けど、生まれて三十六日目、初めてだっこできた時の感動は、今でも忘れていませんよ。

いいお父さん、お母さんですか？ と聞かれたら、「ハイ」と答える自信はありません。

でも、この世で一番子どもを愛していますか？と聞かれたら、胸を張って「ハイ」と答えます。

すぐ怒ってみたり、つじつまの合わない事を言ってみたり、だらしなかったりする私たちですが、それでも、君のことを大切に思う気持ちだけは、いつも忘れずにいます。だから君も、自分を大切に生きてください。

「勉強しなさい」「身だしなみをきちんとしなさい」  
今言ってしまうと口論になってしまう。今言ってしまうと反発に変わってしまう。ほんとうは・・・心では分かっているのでしょうか。後悔してほしくない。私のように・・・。

今しかできないことってあるはず。だから、色々なことに挑戦してみてね。そのためには努力も必要だと思うの。「ああではない」「こうではない」たくさん迷ってちょうだい。そして考えあぐねて・・・。それから遅くないと思うのよ。あきらめるのは。いっぱい、いっぱい迷い道しながら夢を見つけてね。何となく過ごした日々は何も残らないけど、夢に向かって一歩、一歩努力した日々は、何か形になって、あなたの人生に残るものだと思います。

PS これが、約半分の人生を生きてきた母から言える言葉です。がんばってね。

僕から見ている母は、いつも怒っています。僕に一回一回注意してくる母に対して、僕はいいやいやながら言われたとおりにします。だけど、今思えば、小学校で注意されたことは中学校で役に立っている。そう思うと本当にありがたいことです。だから僕は、これからは母の注意は僕のために言ってくれていると思いたいがら、言われたとおりにしたいです。

次に僕から見ている父は、よっぽどのことがないと怒りません。でも、僕は父が怒ったのを見てからは、あまり悪いことをしなくなりました。だから父のおかげで少しは落ち着けたと思います。

だからこれからも、父の言うことも母の言うことも自分のためだと思い、言うことを聞きたいです。

小さい頃、いろいろあったけれど、たくさん愛情をもらいました。母がいなくてさみしい思いをしたときには、どこかに連れていったりして楽しくさせてくれたお父さん。私は、本当に感謝しています。

これからいろんなことがあると思うけれど、親子でがんばっていけたらな、と思います。

毎日感謝でいっぱいです。ありがとうございます、お父さん。

ありがとう

今日もありがとう

いつもありがとう

一日過ぎると

「ありがとう」の心が一つ増える

今日もまた私の心に一つ

「ありがとう」の心が増えました



## 平成15年度「こころの言の葉」コンクール入賞者一覧

### 大 賞

中 学 生 の 部	親 の 部
徳 田 侑 子	新 屋 敷 ひ と み

### 準 大 賞

中 学 生 の 部	親 の 部
吉 留 大 二 郎	古 江 尚 子
中 村 美 幸	中 元 春 美

### 優 秀 賞

中 学 生 の 部	親 の 部
柳 本 美 歩 里	小 林 朋 子
四 元 明 里	脇 美 代 子
山 重 仁 志	青 山 か お り
清 家 と も 子	加 治 屋 里 恵
中 知 華 穂	迫 喜 美 子
下 入 佐 優 里	加 治 木 哲 郎
末 吉 夏 奈	永 吉 雅 博

### 入 選

中 学 生 の 部	親 の 部
森 麻 衣 子	安 山 真 知 子
井 上 真 佑	結 城 里 美
飯 伏 歩 未	坂 之 上 ゆ た か
山 下 詩 織	大 久 保 美 奈 子
迫 田 あ ゆ み	花 畑 治 彦 ・ 智 奈 美
山 下 知 子	宮 永 恵 子
中 村 賢 弘	池 田 加 知 子
中 野 文 子	笹 平 さ と み
脇 田 茜	山 口 マ ユ ミ
西 村 龍 大	金 丸 み ど り

応募総数:3,336点

# 審査講評

千々岩弘一先生

応募作品の一つ一つに琴線を揺さぶられ、つい目頭が熱くなることを禁じえなかった。それほどに保護者の「こころ」の真実、子ども「こころ」の真実が綴られていた。願いつづけて授かった、まさに「子宝」を慈しみ、我が子の成長に自分を重ねながら、共に喜び、悩み、そして信じ続ける保護者たち。そんな保護者たちの「こころ」の内に気づきながらも、自立していく過程でぶつかり合い、甘え、感謝している子どもたち。両者のそれぞれの思いは、読む者の胸を打つ。現代社会の生んだ多様な「状況」に生き、その「状況」に真摯に生きている者しか語り得ない「言の葉」で綴られた作品は、まさに「こころの言の葉」であった。

願うことは、この「こころの言の葉」が、日常の中で、音声・文字・態度として表現され、互いの「こころ」を理解できる「幸せ」につながるっていくことである。

本企画及び企画に応募されたすべての方々に「こころ」からの敬意を表したい。  
審査委員長  
鹿兒島国際大学教授

大迫みちよ先生

日頃言えなかった言葉、伝えられなかった様々な心の思いを、それぞれ自分自身の言葉でのメッセージ。辛い時、悲しい時の困難を乗り越え、やっと伝えられた感謝の気持ち、家族の在り方で親・子の信憑性を感じられるメッセージ等々。中学生の素直な心に胸が熱くなり、涙で文字がかすむほどの作品に大変感動いたしました。親の部では思春期の中学生を持つ全ての親が思っている心情がそのままに綴られ、親・子のかわり方、命の尊さ等、いとし子への愛情がよく表れており、印象的でした。

このように、自分の気持ちを文字にして綴ることで、人としての優しさ、深み、思いやりで親子の絆がさらに深まり、心が和んだ人間関係もより以上に温かさが増していくものと思います。あなたにももらった「こころの言の葉」大切な宝としてそっと出しては何回も何回も読み返すことでしょうか！

生活指導支援員

門田夫佐子先生

親と子。血のつながりの最も濃い間柄であるだけに、互いを「わかっている」と思い込みがちです。でも実のところは全く別個の人格を持つ人間対人間で、互いをわかりあえていっていると思っていたのは幻想だったと、ふとした拍子に気付かされ、ガクゼンとするのです。

「こころの言の葉」応募作品に目を通しながら、親の立場、子の立場からの「言の葉」に、それぞれある特徴を受け取りました。親の側からは、子に対して「あなたをこんなに愛しいと思っているよ」というメッセージ、子の側からは、親に向かって「ふだん言いたいけれど言えないことを、この場を借りて伝えたい」という気持ちのほとばしり。子供の文章には、甘えや遠慮や反感や感謝が詰まっています。口を上らせてしまえば、思いが前のめりになったのめって、きつとしまいまで言い切れないだろうことも、ペンの先に託して書き記してあります。その「書く」という行為に費やされた時間の重さを感じます。親も子も互いを「わかりたい」と強く願っていることを改めて感じた審査でした。

南日本新聞社編集部記者

武田敏郎先生

一枚一枚違う内容と表現。しかし、凝縮された一つ一つの言の葉には、自我意識が揺れ動く多感期の中学生の心の内や、子育てに時として戸惑いながらも、子どもを持つ親の喜び、子どもを思う親の慈しみの心情が多様に滲み出ている、読む者の琴線に触れるものが沢山ありました。短い行間を読み進むうち、幾度となく目頭が熱くなるのを覚えたのは、文にすることによって表現された包み隠しのない親子の情愛が隅々に散りばめられていたからに他ならないでしょう。

今日、さまざまな社会状況の中で、家族のつながりや絆が希薄化していると言われる中、このコンクールは人の心の奥のずつと深いところにある真情を呼び覚ますねらいもあったと思います。ですが、同時に人間はかけがえない絆という関係性に支えられているということを改めて気付かせてくれた、よい機会でもあったと思います。これを機に親子の間で、尚一層、豊かな関係性が紡がれていくことを心から願っています。

市PTA連合会会長

山口光敏先生

成長期にある中学時代は、ともすると自分の思いや考えを表現することに対して遠慮がちとなる。そして、大人の注意やアドバイスも素直に受容することにも抵抗を感じ、反抗的となってしまふ。そのことを、後悔しながらも謝ることすらできずに悩んでいる場合が少なくない。

そうした心の葛藤をいまだきながら生活している現実を大人は理解すべきだろうが、つい自分の子供のこととなると感情だけが先走って、本当の真心をうまく伝えてあげられないのも事実ではないだろうか。

こうした子供と親の本音の橋渡的な役割を果たしてくれるのが、この言の葉によるメッセージではないかと思う。望ましく健全な親子関係を構築していく一つの方法として、各家庭でも試みてみてはどうだろうか。

応募された「こころの言の葉」には、読む者に感動を与え、涙さえ禁じ得ないものも随所に見られ、強い親子の絆を読み取ることができた。

短くも心のこもったメッセージは家庭の信頼と夢をはぐくみ、確かな心のオアシスが潤ってくるものと信じている。

元中学校校長



# わたしからの「こころの言の葉」

親から子へ

# わたしからの「こころの言の葉」

子から親へ

# こころの言の葉

—本当に大切なあなたへ—

平成16年2月20日発行

発行 鹿児島市教育委員会  
〒892-0816 鹿児島市山下町6-1  
TEL(099)227-1941 FAX(099)227-1923

